

祖父の畑をつぐ

5年 物語文 8番

名前

夏休み、ぼくは、いなかにある祖父の家に来ていた。祖父は、毎朝、日がのぼる前から畑に出て、野菜の世話をしている。「ゆうき、手伝ってくれや。」そう言われても、正直、ぼくは気が進まなかった。土はよごれるし、暑いし、めんどうくさい。都会そだちのぼくには、畑仕事なんて、遠い世界のことにように思えたのだ。

しぶしぶ畑に立つと、祖父は、なすやトマトの葉を、一枚一枚、ていねいに見ていた。虫がついていないか、水は足りているか。その手つきは、まるで、赤んぼうの世話をするように、やさしかった。ぼくの知っている祖父は、口数が少なく、少しこわい人だった。それなのに、野菜に向けるその目は、おどろくほど、あたたかかった。

「じいちゃん、なんで、そんなにていねいにするの。」ぼくがたずねると、祖父は、日にやけた顔で、にっと笑った。「野菜はな、手をかけたぶんだけ、ちゃんとこたえてくれるんだ。うまい物ができたときの、あのうれしさは、ほかの何にもかえられんぞ。」しわだらけの手が、そっと、赤いトマトをなでた。

その日、ぼくは、祖父といっしょに、真っ赤に熟したトマトをもいだ。かじると、あまいしるが、口いっぱいに広がる。祖父が、あせを流し、心をこめて育てた味だ。今まで食べた、どのトマトよりも、ずっと、ずっとおいしかった。ぼくが、水やりや草取りを手伝うと、祖父は「たすかるよ」と、みじかく言った。その一言が、なぜだか、じんとうれしかった。

東京へ帰る日、ぼくは、祖父に言った。「来年の夏も、また、手伝いに来るよ。」祖父は、一しゅん、おどろいた顔をして、それから、いつもよりずっと、うれしそうに、深くうなずいた。土にまみれて働く祖父のすがたが、ぼくには、今、とてもかっこよく見えている。いつか、この畑を、ぼくがついでいたら――。ぼくは、そっと、そう思った。

(1) 畑の手伝いをたのまれたとき、はじめの「ぼく」は、どんな気持ちでしたか。文章の言葉を使って書きましょう。

(2) 「まるで、赤んぼうの世話をするように」とありますが、これは、祖父のどんな様子をたとえた表現ですか。書きましょう。

(3) 「なんで、そんなにていねいにするの」という問いに、祖父はどのように答えましたか。文章の言葉を使って書きましょう。

(4) 東京へ帰る日の「ぼく」の気持ちや考えとして、正しいものを一つ選びましょう。
ア 畑仕事は、やっぱりめんどうで、二度としたくない。
イ 祖父の仕事をかっこよく感じ、いつか畑をついでいきたいと思っている。
ウ 早く都会に帰って、ゲームがしたいと思っている。

エ 祖父のことが、ますますこわくなっている。

(5) この物語の中で、「ぼく」の気持ちは、どのように変わりましたか。「はじめ」と「終わり」がわかるように書きましょう。

(6) あなたが、身近な人の仕事やがんばりを見て、心を動かされた経験を書きましょう。

例えば

「母が、つかれていても朝ごはんを作ってくれる姿を見て、感しやした。」

「兄が、毎日こつこつ練習する姿を見て、自分もがんばろうと思った。」

祖父の畑をつく

解答

5年 物語文 8番

名前

夏休み、ぼくは、いなかにある祖父の家に来ていた。祖父は、毎朝、日がのぼる前から畑に出て、野菜の世話をしている。「ゆうき、手伝ってくれや。」そう言われても、正直、ぼくは気が進まなかった。土はよごれるし、暑いし、めんどくさい。都会そだちのぼくには、畑仕事なんて、遠い世界のことにように思えたのだ。

しぶしぶ畑に立つと、祖父は、なすやトマトの葉を、一枚一枚、ていねいに見ていた。虫がついていないか、水は足りているか。その手つきは、まるで、赤んぼうの世話をするように、やさしかった。ぼくの知っている祖父は、口数が少なく、少しこわい人だった。それなのに、野菜に向けるその目は、おどろくほど、あたたかかった。

「じいちゃん、なんで、そんなにていねいにするの。」ぼくがたずねると、祖父は、日にやけた顔で、にっと笑った。「野菜はな、手をかけたぶんだけ、ちゃんとこたえてくれるんだ。うまい物ができたときの、あのうれしさは、ほかの何にもかえられんぞ。」しわだらけの手が、そっと、赤いトマトをなでた。

その日、ぼくは、祖父といっしょに、真っ赤に熟したトマトをもいだ。かじると、あまいしるが、口いっぱいに広がる。祖父が、あせを流し、心をこめて育てた味だ。今まで食べた、どのトマトよりも、ずっと、ずっとおいしかった。ぼくが、水やりや草取りを手伝うと、祖父は「たすかるよ」と、みじかく言った。その一言が、なぜだか、じんとうれしかった。

東京へ帰る日、ぼくは、祖父に言った。「来年の夏も、また、手伝いに来るよ。」祖父は、一しゅん、おどろいた顔をして、それから、いつもよりずっと、うれしそうに、深くうなずいた。土にまみれて働く祖父のすがたが、ぼくには、今、とてもかっこよく見えている。いつか、この畑を、ぼくがついでいたら――。ぼくは、そっと、そう思った。

(1) 畑の手伝いをたのまれたとき、はじめの「ぼく」は、どんな気持ちでしたか。文章の言葉を使って書きましょう。

(例) 土はよごれるし、暑いし、めんどくさいと感じ、気が進まない気持ち。

(2) 「まるで、赤んぼうの世話をするように」とありますが、これは、祖父のどんな様子をたとえた表現ですか。書きましょう。

(例) 祖父が、野菜の葉を一枚一枚、とてもていねいに、やさしく世話をしている様子。

(3) 「なんで、そんなにていねいにするの」という問いに、祖父はどのように答えましたか。文章の言葉を使って書きましょう。

(例) 野菜は、手をかけたぶんだけこたえてくれる。うまい物ができたときのうれしさは、ほかの何にもかえられない、と答えた。

(4) 東京へ帰る日の「ぼく」の気持ちや考えとして、正しいものを一つ選びましょう。

A 畑仕事は、やっぱりめんどくで、二度としたくない。

① 祖父の仕事をかっこよく感じ、いつか畑をついでいきたいと思っている。

ウ 早く都会に帰って、ゲームがしたいと思っている。

E 祖父のことが、ますますこわくなっている。

(5) この物語の中で、「ぼく」の気持ちは、どのように変わりましたか。「はじめ」と「終わり」がわかるように書きましょう。

(例) はじめは、畑仕事をめんどくさいと思い、気が進まなかったが、祖父の野菜への思いにふれ、終わりには、その仕事をかっこいいと感じ、いつか畑をつぎたいと思うように変わった。

(6) あなたが、身近な人の仕事やがんばりを見て、心を動かされた経験を書きましょう。

(例) 母が、おそくまで仕事をして、つかれていても朝ごはんを作ってくれる姿を見て、感しやした。

例えば

「母が、つかれていても朝ごはんを作ってくれる姿を見て、感しやした。」

「兄が、毎日こつこつ練習する姿を見て、自分もがんばろうと思った。」

解答・解説 祖父の畑をつぐ（5年・物語文）

問1 （例）土はよごれるし、暑いし、めんどくさいと感じ、気が進まない気持ち。

一つ目の段落に「気が進まなかった」「めんどくさい」とあります。

問2 （例）祖父が、野菜の葉を一枚一枚、とてもていねいに、やさしく世話をしている様子。

「一枚一枚、ていねいに見て」「やさしかった」から、大切に世話をする様子を読み取ります。

問3 （例）野菜は、手をかけたぶんだけこたえてくれる。うまい物ができたときのうれしさは、ほかの何にもかえられない、と答えた。

三つ目の段落の、祖父の言葉をまとめます。

問4 イ

「とてもかっこよく見えている」「この畑を、ぼくがついでいけたら」から、祖父を尊敬し、畑をつぎたいと思う気持ちが分かります。

問5 （例）はじめは、畑仕事をめんどくさいと思い、気が進まなかったが、祖父の野菜への思いにふれ、終わりには、その仕事をかっこいいと感じ、いつか畑をつぎたいと思うように変わった。

「はじめ（めんどくさい・気が進まない）」→「終わり（かっこいい・つぎたい）」の変化が書けていれば正かいです。

問6 （例）母が、おそくまで仕事をして、つかれていても朝ごはんを作ってくれる姿を見て、感しゃの気持ちがわいた。

身近な人のがんばりと、自分の心の動きが結びついて書けていれば正かいです。